

2015.6.16

小原院長の“いま一番気になる人・仕事”スペシャル対談

大月輝彦×小原忠士

平成2年の開院以来、25年間にわたり地元連島を中心に多くの住民の方から信頼を頂き、皆様の健康に貢献してきた小原整骨院。その小原院長が“いま一番気になる人・仕事”というテーマで、ゲストの方と対談をして頂きました。今回は、中四国で一番古いゴルフ場として有名な岡山霞橋ゴルフ倶楽部の支配人である大月輝彦さんをゲストにお招きし、ゴルフの魅力について語り合っていました。(2015年6月11日(木) 霞橋ゴルフ倶楽部にて)

「ゴルフ倶楽部は、“生涯教育の実践場”としての社会的役割を担うべきだ、
という思いがあるんです。」

ゲスト紹介

■ 大月輝彦 (岡山霞橋ゴルフ倶楽部 支配人)



1967年11月13日生まれ。美星町出身。大手食品メーカーに20年勤務後、岡山霞橋ゴルフ倶楽部副支配人を経て支配人となる。フランクな外見からは想像がつかないほど鋭い経営センスを持っており、支配人就任後、入場者数・売上ともに一度も前年度比を割ったことがない。特技はデザイン・絵を描くこと。現在の岡山霞橋ゴルフ倶楽部のチラシやポスターは全て大月支配人の手によるものである。

■ 小原忠士 (小原整骨院 院長)

1964年 倉敷市出身。地元である倉敷市連島で開院以来25年にわたり地域の皆様の健康に貢献してきた小原整骨院の院長。柔道整復師としての技術力は当然、その穏やかな人柄で多くの患者に慕われ、スタッフからの信頼も厚い。6月には株式会社エミリンクとして法人設立。代表取締役となる。



株式会社エミリンク (小原整骨院)

■ 司会進行 俣野浩志（株式会社パッション）

1970年 岡山市出身。一般社団法人ウェブ解析士協会認定 初級ウェブ解析士。経営修士（MBA：香川大学大学院地域マネジメント研究科）。大学でマーケティングを学んだ後11年間印刷・デザイン業界に勤務。2009年に岡山県産業振興財団主催のベンチャー・ビジネスプランコンテストにて奨励賞を受賞。2013年大学院にて「住民主体の体験交流型プログラムが地域社会に与える影響についての考察」というテーマで、NPOのまちづくりを研究した。

クラブメンバーのステイタスをどこにもつか…常にゴルフをしていたいとか、社交場なので友達を作りたいとか。私としては、生涯教育の実践場として考えられたらどうですか？とお勧めしています。

司会：今回は中四国で一番古いゴルフ場、岡山霞橋ゴルフ倶楽部の支配人である大月さんとの対談ということで、霞橋ゴルフ倶楽部にお伺いさせていただきました。まずは小原先生と大月さんとの出会いを教えてください。

小原：大月さんとの出会いは、実は患者さんとして来院されていたのですよね。よくゴルフの話題で盛り上がり…それがキッカケで親密にさせて頂いています。

大月：私は、実は整体マニアでして…。あちこち治療に行きましたが、現在、小原整骨院で落ち着いています（笑）。仕事柄、ラウンド数も多く体に負担をかけながらも回っていましたが、小原先生のおかげで、今は目一杯動かすことができます！

小原：ありがたいお言葉をありがとうございます！今日はいろいろと教えてください。では早速なんですが、こちらの霞橋ゴルフ倶楽部はとても歴史があると伺ったんですが。具体的にはいつ頃から営業されているのでしょうか？

大月：この倶楽部は歴史がありますよ。1930年（昭和5年）4月1日が設立ですから、今年で85周年を迎えますね。この河川敷でゴルフをやり始めたのはさらに1年前の昭和4年とかじゃないですかね…。3ホールできた時点でやり始めていたんだと思います。

小原：そうなんですか。3ホールしかなくて…。

大月：そうなんです。実はゴルフの原点を紐解いていくと面白いんですよ。ゴルフはスコットランドで発祥したと言われていています。15世紀頃の文献に既にゴルフはされていたという記述があるので、それよりも前でしょう。正確な起源は確認できないのですが…。それによると初期のゴルフは1ホールから始まっていて、1ホールを何度も回るのがゴルフだと…それがゴルフの原点。それから9ホールになった。ちなみに、ここ霞橋は拡張する土地がなく、残念ながら9ホールなのですが…。

小原：場所が場所だけに、国交省が管理する土地ですかね…それは致し方ないというか…。しかし、ゴルフという競技には歴史がありますね。確かゴルフの聖地と言われているセント・アンドルーズもスコットランドですよ。霞橋も85年の歴史があるとなると、国内のゴルフ場の中でも古い方ではないですか？

大月：ええ、中四国で初だったようです。当時の日本でゴルフ場の需要がでてきた頃ではないでしょうか。日本でのゴルフの発祥の地は神戸なんです。古いところを調べたら、長崎、神奈川、小樽など港にできているんです。明治維新の時の開国の歴史とリンクしているんですよ。開港していった時に、西洋人が来てやり始めた。神戸はイギリス人が始めて、後に外人専用のゴルフ場が日本人にも解放されるようになった。どうやらそういうケースが多いようですね。なので、日本に入ってきて114年ほどではないでしょうか。霞橋は国内で17番目のコースです。かなり早い時期にできているんです。現存するところで数えると、15番か16番目。



小原：15番とか16番目ですか！ゴルフ場の数からいうと凄いいんじゃないですか！

大月：国内のゴルフ場は約2,400コースあると言われていていますから、実は凄いいんです（笑）。それだけではないんですよ、ここ霞橋のコースは設計者も有名です。日本ゴルフ史に名を残す設計家、J・E・クレインが初期の霞橋のコースを設計しています。クレインはイギリス人の父を持つハーフで、二人の兄を含むクレイン3兄弟としてゴルフ界では一目置かれた存在なんです。日本シニアが開催される鳴尾ゴルフ倶楽部など、関西を中心に約22のコースの設計に携わっています。クレインが設計するコースは、あくまでも自然が主役で、日本独特の起伏を生かした設計で、難易度も高めなんです。それに景観に変化をもたらすコースデザインも特長で、全国のクレインが設計したコースを回る熱烈なファンがいるくらいです。

ちなみに、そのあたりのウンチクは、うちの女性スタッフにゴルフマニアがいるので、知的好奇心を満たしたい方は是非遊びに来てください。ゴルフの歴史を紐解くだけでも、楽しい時間が過ごせますよ。

小原：そんな凄いコースが倉敷にあるなんて！みんなに知ってもらいたいですよ。ウンチクもゴルフの楽しみ方の一つですね（笑）。ところで、大月さんはずっとこの業界にいらっしやたのですか？

大月：いえいえ、全くの異業種からですよ。前職は食品業界、ジャムメーカーにいました。そちらの方が長い。20年いましたからね。もちろん、サラリーマン当時からゴルフはやっていまして、好きだったものですから、ご縁があって、ここの倶楽部を任されることになったんです。2010年のことです。その当時「公益法人制度改革関連3法案」が施行されたことを受け、全国で29あった社団法人が経営・運営するゴルフ倶楽部は公益社団法人を目指すか、一般社団法人になるか、または株式会社となるか決定し、移行しなければならなかったんです。2006年の施行で猶予期間が5年あったのですが、期限が迫っており…ちょうどそんな過渡期だったんですよ。実はこの時の、一般社団への移行という出来事が、私が霞橋に来るキッカケだったんですよ。

小原：そうなんです。では組織とか…いろんなことが変わる本当に過渡期だったんです。ところで、一般社団法人が運営する倶楽部は珍しいんですか？

大月：ええ。結局、あの法律の施行によって公益法人制度改革で社団法人のゴルフ場は全国で28になってしまったんですが…2,400あるコースの数から考えると珍しいでしょう。社団法人なので、営利を目的とする株式会社とはやはり違いがあります。利益を上げること自体問題はないんですよ。ただ利益分配、株式会社でいうところの株主配当が規制されているだけで…。法人税法上の非営利型法人の条件を満たしていれば、「収益事業課税」と呼ばれる優遇税制があるなどの違いはありますが、株式会社などは全所得課税です。しね。

一般社団法人は、株の代わりに出資という形を取るんです。株式ではなく、出資者が少しづつ出して運営するんです。社長が不在で、代わりに理事長を置く。理事長は出資者のなかから選ばれます。出資金は一口3万円。みんなで出し合って作っているという感じですね。

小原：ゴルフ場の運営と聞くと、リゾート開発などのイメージが強く、バブル期の…。

大月：そうですね。あの頃は、リゾート法によって乱開発されましたね。ほとんどが投機目的で…。まあバブルがはじけて不動産価格も下落し、本来のあるべき姿、需要と供給のバランスが釣り合ったところでしょうか。古くからあるゴルフ倶楽部は、法人形態にかかわらず、公益活動という意識を持って運営されていると思いますよ。

小原：会員権とかあるんですか？

大月：会員権はありますよ。うちの場合は社団法人なので社員ということになるんですが。額面で3万円。出資金にプレミアムがついて、高いときは1,000万円になることもあります。今、会員権を買おうと思ったら、口数が決まっているので、増資しない限りはできないんですよ。ですから、今持たれている方から譲り受けることができれば会員になれます。スポーツなので、ご高齢になり、ゴルフが出来なくなった方が手放すのを待つしかないでしょうね。602口しかないんです。

小原：1,000万円！結構つきますねプレミアム。

大月：ははは。クラブメンバーになるのが前提なんです。クラブメンバーのステイタスをどこにもつか…常にゴルフをしたいとか、社交場なので友達を作りたいとか。私としては、生涯教育の実践場として考えられたらどうですか？とお勧めしています。本来ゴルフには「クラブライフ」という考え方があって、ゴルフ場＝地域の社交場であり、ゴルフそのものが目的ではなく、ゴルフを通じて人との交流を深めることが目的だったんです。うちのクラブはそういうゴルフの精神も大切にしています。社交場ですから、その場にふさわしいエチケットやマナー、気配りが求められます。ゴルフクラブとはそういった社会的マナーを学ぶ場なんです。例えば、その場にふさわしい服装というのは、同伴者に迷惑をかけない＝恥をかかせないことにも繋がるんです。こういう社会的マナーができること、つまり紳士ですよ。あそこの倶楽部に属している方であれば、紳士的だろうと…クラブライフを実践すること＝ステイタスとなるわけです。

なので、ここの倶楽部には、ただ来るだけの方もいらっしゃるんです。とりあえず来て、たまたま居合わせた方々と話をして、「じゃコースに出ようか！」という感じで…。これがゴルフが発祥した時の本来のスタイルなんです。もちろん、接待とか仕事の場として使う方もいらっしゃるし、一般のビジターも多くお見えになりますよ。

うちの倶楽部は、プレーしやすい料金設定ですから、根っからのゴルフ好きには嬉しいと思います。ラウンドも、フルの18ホール回る方、ハーフ回る方、36ホール回る方、様々な方がいらっしゃるんです。料金はセルフ平日で18ホール6,000円、食事は別ですが。9ホールだと3,500円。36ホールは5,200円、ただしこれは曜日指定となっています。なんだか整合性がない料金設定ですが（笑）。倶楽部としてはみなさんに楽しいんでいただこうと結構無理しているんです。開催しているのは金曜日と一部の火曜日。自由に来ていただいて、順番に出してもらいます。これについては常に開催しているわけではないんです。それでもこれ目当てで、朝早くから来られて回られる方もいらっしゃいます。こうした手頃な料金設定は長く続けて欲しい、ゴルフを広めたいという思いからなんです。

小原：本当にプレーしやすい料金設定ですね。ラウンドにかかる時間とか、山間部にあるコースとはやはり違いますか？

大月：ええ、うちのコースでは18ホールを3時間弱で回る方もいらっしゃいますね。山岳コースや丘陵コースは2時間半ほどで9ホール回るのが通常でしょうか。うちの場合は9ホールだと1時間半ほどで回れます。36ホールだと8時ごろ来られて3時ごろに帰られる方もいらっしゃいますね。そういう意味では手軽な感じで楽しめるのが河川敷コースのメリットですね。実はこの河川敷コースというのが割と癖があって面白いのですよ。

小原：ほう。例えばどういう？



大月：ええ、ここは山岳コースよりも風の影響が強いんです。“風の霞”といわれるくらい、風が吹くんですよ。なので毎回条件が違うなかでラウンドを楽しめる（笑）。風を味方につけられるかどうかでこのコースは変わるんです。まあ言ってみれば、倉敷にいて全英とかの気分が味わえる（笑）。ひどいときは通常の半分しか飛ばないというのが平気で起こりますからね。自分の技術の進歩にもつながりますよ。

景色の良さも河川敷コースのメリットです。お昼から見る高梁川の景色、景色を見ながらのプレーは最高ですよ。今の時期は涼しいときからできるのでお勧めです。季節で一番良いのは5月、6月、10月くらい。5、6月は新緑が綺麗です。冬は風が強いんですが、夏は逆に涼しい。風で体感温度が2、3度変わりますからね。山よりは涼しいです。冬は山より暖かいですから、ゴルフをするにはこの環境は良いと思います。まあ風はどこに行ってもあるので…ここはそれがちょっと強いだけで（笑）。高梁川の夕方の景色を見ながらラウンドしてみてください。とても良いですよ。3時半くらいにスタートすれば夕焼けの良いタイミングで回れますよ。水島に務められている夜勤の方のなかには、出勤前に来る方もいらっしゃるんですよ。もう完全にライフスタイルの一部ですね。

小原：なるほど！生活圏に近い河川敷コースならではのメリットですね。しかもリーズナブルな料金設定ですし、確かにライフスタイルとして長く続けられそうですね。先ほど、生涯

教育の実践場ということをおっしゃられました。ゴルフは高齢になってもできるスポーツですし…。そういったところもゴルフの魅力なのではないでしょうか。大月さんから見たゴルフの魅力とは、どんなところにあるんでしょう？

大月：ゴルフの素晴らしさ、楽しみ方はたくさんあります。社交場として人との交流を楽しむ。自分のステイタスとして。価値観を高める手段として。ナルシスト的な人も（笑）。競技としての楽しみはもちろんあります。一喜一憂出来る、またそれを話題にプレー後の一杯なんかも良いですね。人それぞれ色々な楽しみ方をすれば良いと思うのですが、私自身は、生涯教育の実践の場として、ジュニアから高齢者まで、人格形成に役立てる素晴らしいスポーツだと思っています。またそこにとっても魅力を感じています。

例えば、エチケットとかマナー。ゴルフはこれがものすごく多いんです。全てのスポーツも最初はエチケットとマナーに触れていますが、ゴルフでは、その部分を最重視しています。ゴルフ規則の第1章がエチケットについて書かれている部分ですが、これほどまでに相手に対する思いやりとか、気配りを大切にしている競技は他にありません。

小原：確かにそうですね。私たちもよくわからないので、知っている人に連れて行ってもらうと。変なことしてしまうのではないかと…不安になります。そういった面があって敷居の高さを感じてしまいます。



大月：普通は連れてきてくれた先輩に教えてもらうことが多いでしょう。しかし教えてくれる人がいないと垣根になって敷居が高いというのは確かにありますね。ここでも初めて来た人やルールを知らないという方に向けて、簡単なレクチャーはしています。特にジュニアには、一般の方にもすることもありますが。

教えるという行為は良い経験になると思います。学ぶことは人生の中でもありますが、教える経験というのはそう度々はないでしょう。教えることは

最高の学びとも言われますし。それに自分ができているかどうか、反面教師にもならないと教えられないので、自分を省みることもできますよね。また優越感にも浸れるし。技術を教えるのが好きな人、マナーを厳しく教える人などいろいろいらっしやいますね。教えられた人は次の人に必ず教えていますね。そういう文化というか風土が継承されていくのを見ると嬉しいですね。

生涯教育の実践の場という意味でいうと、例えば、ご飯も食べず、人を追い越して回る人もいらっしやるんですが、そういう人を先に行かせてあげるパスというマナーもあるんです。早い方を先に行かせてあげる。自分たちのグループだけではなくて、全ての人と楽しんでいるので、その人たちにも気を遣いなさいというのがゴルフの精神。

私たちの言う“生涯教育の実践の場”というのは、他人への気配り、健康、自分自身への規律などが学べる場ということです。ゴルフは審判のいないスポーツですから、すべて自分自身の判断なんです。プレーヤーがフェア、正直であることを前提にルールが作られ、それを守るということで成り立っているスポーツなんです。ですから、ことさらにエチケットには気を配る必要があります。衣装、ドレスコードひとつとってもそうです。ゴルフも地域によ

って少しずつ解釈が違います。夏場だと、アンダーシャツを服と見るか、下着と見るか。作業着はダメ、ウインドブレーカーをダメというところもある。そういうものを着て人前に出るといのが失礼にあたると思われているんです。アンダーシャツは関東がダメというところが多い。やはりゴルフ場は社交場ですから、人に不快感を与えるものはエチケットに反するわけです。他にも、14本クラブを持ってコースに出るが、3本は常に持って、自分のところまでは素早く行く。打つときは「打ちます」と言って安全確認をする。人が打ったボールを見てあげる。打つと芝がめくれるので、打った後は、穴に砂を入れる。穴に次の人が入るとだめなので…。グリーンも足を上げて、芝をいたわる。嬉しくても大声を出さない。大声を出した瞬間に、今打とうとする人に迷惑がかかるので…。根底にある考え方は、コースを保護することと次の人がちゃんとした条件でプレーできるよう心配りをするということなんです。ただこれを全て覚えるというのではないんですね。覚えるというより体感しながら身につけるものなんです。自然と行えるように。

自分以外のプレーヤーに心配りをするのがマナーでは一番大切なので、そこが腑に落ちれば、こと細かに教えられなくても、迷惑をかけるなど相手を不快にさせるようなことはないでしょう。

小原：エチケットやマナーを学ぶ機会というのは、家庭においては躰でしょうし、学校では集団社会の中での振る舞いを、遊びや行事を通じて学ぶというケースが多いでしょうね。それこそ、よくあるテーブルマナーにしても、箸の使い方を教える理由を勘違いしているケースも多いです。子どもの躰が出来ていないのは親が恥ずかしいからとか…。逆に箸の使い方が変でも人に迷惑をかけていないという親もいますしね。そういう親に限ってナイフやフォークの使い方を教えてる（笑）。

大月：ははは。躰は生存に関するものから、社会性、対人関係など幅がありますから、年齢に応じて相応の躰をしていく必要がありますよね。箸の使い方についても、相手に不快な思いをさせないということが分かっていたら、それが社会性を学ぶ上でのベースとなることが理解できるはずですしね。

特に社交場としてゴルフ倶楽部が担うべきは、社会性の部分ですね。そこは家庭や学校ではなかなかできない部分です。社会に出てから学ぶことが多いですね。就活生が体験すると良いと思いますよ。たまに自衛隊の体験をさせることがありますが、本当のゴルフの体験も良いですね。年代を超えたお付き合いもできる。ジュニアから90代のおじいちゃんもいますからね。お風呂もあるので裸の付き合いもできますしね。良い人生経験ができますよ。倶楽部で一緒に1日過ごすのですから、うまくコミュニケーションが取れると、その日1日が面白く過ごせます。

小原：なるほど、就活生や大学生には、なかなかマナーやエチケットを学ぶ場がありませんね。若手のビジネスマンにも良いですよ。

大月：ビジネスマンとすれば、接待ができるようになるための下準備をする場所になりますね。僕らがサラリーマンの時は、飲み屋とかでもマナーを教えてくれるママがいたんです。例えば、ネクタイを外して良いかどうかの判断。飲み屋でお客さんが帰られてネクタイ緩めたらママに怒られるんですよ。「上司がまだいるでしょ！」って。上司にもちゃんと気を遣わなければならない…。そういったマナーを学ぶ場が今は少ないですよ。人付き合いも希薄なっていて。飲みに行くことも学びの場であったはずなんです。

私も、ゴルフでのエチケットやマナーというのは、サラリーマンの頃も意識していましたが…今思えば全くできていなかったですね。本気で取り組みだしたのは霞橋に関わるように

なってからです。そのキッカケを与えてくださったのが、鈴木康之さんというマナー研究家、ゴルフのマナーについて研究されているんです。コラムニストでもあるんですが…その方が奥様とここにいらっしゃった時に、一緒にランドさせていただいて…クレインの作ったコースを回りたいということで。その時に、紳士のスポーツであるゴルフの精神や、社交場としての社会的な役割などを、いろいろ聞いて感銘を受けて…本も読みました。今も年に一回来られるんですよ。マナーの会も作られていて、マナーに対する考え方を広める活動をされています。

障がい者の方に、就労支援で入ってもらっています。働く場を提供することで、そういった方も含めているんな方がチャンスをつかめる場所にしていきたいですね。

小原：大月さんは、マナーやエチケットをもっと広めるような活動はされていないんですか？

大月：実は色々と考えていて…。座学も含めた「マナー講座」もしたいと考えているんです。マナー講座の話を倉敷芸術科学大学に持って行ったんですよ、人間教育にゴルフを活用しませんかという提案で。現在検討中ですが。逆に講師の依頼があったんですが、生徒の前で講義をするというのは、度胸がなくてというか…なかなかね…（笑）。

小原：ははは。それは良いですね。是非うちの整骨院で講師をやってもらいたいですね。講義をするための下準備として！（笑）。

私達の業界は医業類似行為と法律で定められていて、医業に近い業界なのですが、サービス業の要素が大きいです。人の体に施すサービスですから、やはり相手のことを考えて丁寧に、慎重に施術しないとイケません。ですから、相手への思いやりなどが大切なんです。マナーやエチケットは相手への思いやりがないと身につけませんよね。

大月：そうですね。整体でも、施術を受けるためのマナーもあるでしょうね。例えば、お酒を飲んでくるのはご法度。デニムのゴツイ服などは施術しにくいので着てこないなど。要は、相手のパフォーマンスを最大限発揮してもらえるように考えることが大切なんです。自分のことを考えるのであれば、逆に、まず周りの人のことを考えないとイケない。これが大切です。全てに当てはまるんですけどね。

小原：お話をお伺いすればするほど、整骨院で「マナー講座」をやってもらいたくなります。是非やりましょうよ！

ところで、霞橋ゴルフ倶楽部はチャリティーなども積極的にされているようですが。

大月：ええ、ゴルフ倶楽部は、生涯教育の実践場としての社会的役割を担うべきだという思いがあるんですが、実は、霞橋は歴史があるがゆえに、閉鎖的な倶楽部だったんです。その風土を私が就任してから変えたんです。一般の人が利用しやすい環境作りをしよう。

ゴルファーに対しての魅力作りというのであれば、コースを18ホールに増築するという選択肢もあるんですが、一級河川なのでそれは難しいんです。まあ増築するつもりもありませんが。ですから本来のゴルフをしたいということ以外の目的、用途活用を考えないと、ゴルフ需要だけでは先細りになります。そこで、一般の方にも解放しよう…。それも社会貢献の面を重視した活動をと…。例えば、場所の提供。広い場所で芝生があるので、クロスカントリーなど。毎年やっているのはウォークラリーです。地域の方に場を提供し

ています。一昨年からスタートしました。今年で3回目になるんですが、初年度は600人、昨年は1,000人の方が参加されました。今年も秋に予定しています。

他にも、チャリティーゴルフなどのイベントがあります。昨年秋に開催したんですが「倉敷市良い子いっぱい基金」に対するチャリティーとか。80人くらいコンペに参加いただいて、40万円弱あつまります。コンペに参加されていない方からも寄附をいただいたりもします。参加はどなたでも自由です。プレー費の一部を寄附させていただきます。18ホールでプレー費は実費、5,000～6,000円。またコースを回るなかで、なんらかの理由を付けて寄附する機会を設けています。じゃんけんで負けたら寄附。グリーンに乗らなかったらなら寄附など。このチャリティーでは、ジュニアの子ども達がお手伝いしてくれるんですよ。ここの倶楽部はジュニアゴルファーも結構練習に来ていましてね、常時10人くらいの子ども達が来てくれています。熱心に練習してますよ。中には、スタジオアリスオープンという全国大会があるんですが、その小学生の部で優勝した子、今6年生かな…など、有望な選手もいます。他にも、水島中学の子で、全国の高校生のゴルフ連盟の強化選手に選ばれている子もいます。まだ中学生ですよ。

ここの倶楽部には打ちっ放しはないんです。打撃練習場の簡易なものではありますが、ですから実際のコースで練習しているんです。そういったジュニアの育成をしている関係もあって、倉敷市のジュニアの大会をここでやっています。観戦も可能ですよ。

他にもスポット的なチャリティーでは、来月7月23日（木）に、生後8ヶ月の四国のお子さん「ななちゃん」の心臓移植の費用2億8,000万円の募金に協力するチャリティーコンペも行います。

小原：素晴らしいですね。本当に市民に開かれた倶楽部ですね。

大月：ありがとうございます。チャリティーコンペは生涯教育のひとつの協力のかたちだと思っていますから。チャリティー以外でも、様々な人とのつながりの場を提供したいとの思いもあり、障がい者の方に、就労支援で入ってもらっています。働く場を提供することで、そういった方も含めているんな方がチャンスをつかめる場所にしていきたいですね。

小原：これからの地域社会では、企業も事業を通じて社会的役割を担う、また社会貢献なども含めて、積極的に社会に関わっていくことで、その企業の存在価値を高める必要があるのではないかと思います。

大月：そうですね。うちは社団ですから、利益を追い求めることを最重視しているわけではありませんが、良い事業をして社会に貢献しているのに、事業が立ち行かなくなってしまうけません。NPOなどもそうですが、やはり収益事業もしっかり行って持続可能な体制を作らなければ、かえって社会に迷惑をかけてしまいますね。それは時代の要請かもしれませんね。というのも、私どもも一般社団なのですが、事業を継続するために、来場者数と売上の目標は設定しています。まあしかし、そこまでして確実な利益をとらなければならぬというのではないのですが、おかげさまで来場者は昨年対比114%アップしています。岡山全体が、昨年対比96%来場者数の中で…。

これは、社会に開かれたゴルフ倶楽部として、地域に密着した活動が、功を奏したのではないかと思います。人との触れ合いをテーマにしたり、女性をターゲットにした企画、チャリティーコンペやウォークラリーですね。社会が必要としている企業は生き残っていくんだなと感じますね。

小原：そうですね。うちも整骨院ですから、まさしく地域密着です。親子2代にわたって

来てくださっている患者さんもいらっしゃいます。そういう方々とのつながりがあると、必要とされているんだなど、私たちも嬉しいですし、より一層、患者さんのために頑張ろうって気持ちになりますよね。

大月：そうですね。小原先生のところもチャリティーを含めたゴルフコンペを企画されても良いかもしれませんね。例えば、三木先生による体の構造のレクチャーを入れるなどしたら良い企画になりますよ。整体のプロから見るアドレスの基本など。構え、重心の持っていきかた。実際、私も施術してもらって、肩と腰がほぐれたら結果が違いますから。コンペは100人までOKですから。一人5,000円とかで開催して。賞品は1,000円程度集めて、ブービー賞、ニアピン、ドラコン、トップ賞、ドラタンなど用意して。それにチャリティーを絡める、一人200円、300円とかいただいて寄附するなど。

小原：良いですね！単に楽しむだけのイベントではなく、患者さんや地域の方との触れ合い、さらには社会貢献もできるなんて、ゴルフコンペは企画次第で様々な活用ができるんですね！

大月：ええ、また企画してご提案しましょう！



小原：是非、お願いします。本当に今日は素晴らしいお話を聞かせていただいて…ありがとうございました。

それはそうと、今回の対談で大月さんのプロフィールを教えてくださいとお願いしたら、面白い小ネタをたくさん頂きましたよ。スタッフの方が書いてくださったんですよ。すごく慕われているのが伝わってきます…突っ込みどころ満載で！（笑）。来月 FM 暮らしきの「気まぐれ！メンズトーク」の7月16日（木）のゲストとしてご出演頂くときに使わせて頂きます！その時は、プライベートのお話や、大月さんのこんなことあんなことをじっくりとお伺いしたいと思いますので（笑）。

大月：しまったなあ…。怖いですねえ！お手柔らかにお願いします（笑）。今日は、ありがとうございました。

小原：こちらこそ、ありがとうございました。

.....

■ 一般社団法人 岡山霞橋ゴルフ倶楽部

〒712-8001 倉敷市連島町西之浦 5937-1 TEL:086-444-9281 FAX:086-444-9227
facebook <https://www.facebook.com/kasumibashi/timeline>

株式会社エミリンク（小原整骨院）

Copyright (c) 2014 Emilink.Co.,Ltd. All Rights Reserved.

■ 小原整骨院（本院）

〒712-8014 倉敷市連島中央 2-3-22 TEL&FAX : 086-444-9595

受付時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～19:15	○	○	○	×	○	×	×

こはら鍼灸整骨院（倉敷分院）

〒710-0003 倉敷市平田 615-1 TEL : 086-486-3363